【特集】

想定外を想定内へ
―東日本大震災から10年―

●自助・共助・公助が大切

未曽有の大震災と呼ばれた「東日本大震災」から今年の3月で10年が経過しました。

白糠町はこれまで、東日本大震災から学び、洪水や津波の浸水想定などをもとに、町民の皆さんの生命と財産を守るため、さまざまな災害対策をしてきました。

災害の被害を少しでも減らすためには、自分の身は自分で守る「自助」、地域の皆さんで協力して助け合う「共助」、町が進めてきた「公助」の連携が、より大きな力となります。

今回の特集を通して、これまでの取り組みを振り返り、いつ・どこで起こるかわからない災害に対して備えていきましょう。

災害時の避難行動

北海道が想定する千島海溝沿いを震源とする巨大地震は、マグニチュード9以上、震度6弱です。この地震で発生する津波はおよそ30分で海岸線に到達し、そこから時速40キロの速さで建物を倒し、地表を覆っていきます。

津波に関わる警報が出たら、それは「避難指示」の発令です。

国が全国瞬時警報システム（Jアラート）を使い、町内の屋外拡声スピーカーと戸別受信機からサイレンと避難を呼びかける放送が流れます。

次の点に注意して「いち早く、安全に、高い場所（津波指定避難場所など）」へ避難しましょう。

①事前に準備した「非常持出袋」など必要なものを持って速やかに避難

②原則「徒歩」で避難

③できるだけ川沿いは避けて避難

④避難の際は、災害弱者の方（高齢者や障がいのある方など）に安否の声掛けを

⑤できる範囲で災害弱者の方の避難支援を

大雨や洪水に際しては、事前避難をしましょう。

記録的短時間大雨や台風による大雨、洪水など、テレビやラジオからの情報に注意しましょう。

役場や消防から避難の呼び掛けがあった場合や危険を感じたら自主的に、速やかに指定の避難所へ避難しましょう。

国は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、安全な場所にいる友人や親類の所へ避難することも呼び掛けています。

津波指定避難場所

平成24年度から町内15カ所に「津波指定避難場所」を整備しました（次ページ参照）。

津波指定避難場所は、一時的に避難する場所です。照明、簡易な暖房などが黄色いコンテナや倉庫（※空港短絡線中腹を除く）に備蓄されていますが、幾日も快適に過ごせるわけではありません。季節によっては防寒も必要ですし、地域ごとに安否確認や情報収集をしながら津波警報が解除されるまで助け合いながら過ごしましょう。

もし、買い物先などで地震・津波に遭遇した場合、近くの避難場所をご存じですか？緊急時に逃げるべき避難場所を知っておくために「地震・津波ハザードマップ」を今一度確認し、家族、地域で避難の方法などを事前に話し合っておきましょう。

東日本大震災に伴う津波で白糠漁協市場が浸水